

1. この前のわくわくで、大極殿遺址の碑の読み方について質問がありました。HPにもアップされたので、ご覧になった方もおられると思いますが、もう一度詳しく説明します。

この石碑には「大極殿遺址」と書いてあるのですが、「極」「遺」「址」の字が変わっています。これは異体字とって、石碑などの文字を格好よく見せるために使われる字です。

では、一つずつ詳しく説明していきましょう。

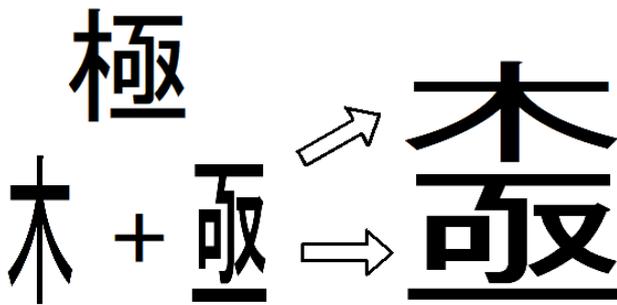
2. 「極」という字は木偏の画数が少なく、左右のバランスが悪いので、左右対称にするために偏と旁を縦に並べています。このやり方は、あちこちの石碑でよく使われるので、皆さんもご覧になることが多いと思います。



異体字

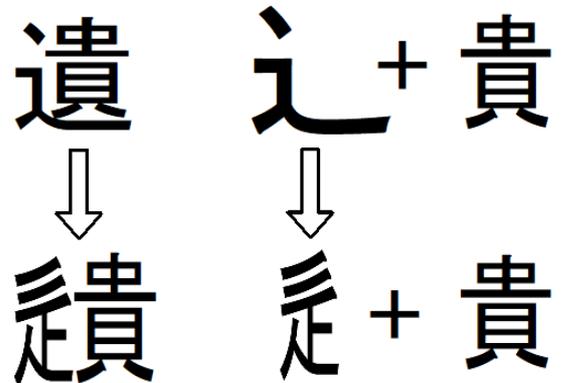
②

1. 偏と旁を縦に並べる



3. 次に「遺址」の「遺」の字ですが、この字も変わっています。「遺」の「しんにょう」は左右対称にならないので、「しんにょう」の元の字である、この字に置き換えて、その右に「貴」の字を置いています。

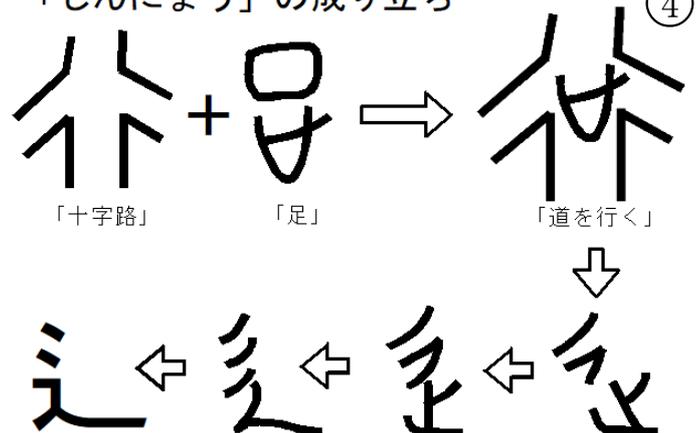
2. 部首を元の字に置き換える③



4. 「しんにょう」は「十字路」と「足」を組み合わせた象形文字です。「足」の象形文字の上の四角は膝を、下の形は足先を表しています。

「十字路」と「足」で、「道を行く」という意味になります。次のように変化して「しんにょう」になりました。

「しんにょう」の成り立ち④



5. 最後の「址」の字は「土偏」が「こざと偏」に置き換わっています。どちらも同じ意味で、「こざと偏」の方が、本字だそうです。

「土」は柱状に固めた土、「こざと偏」は段のついた土の山という意味で、「あと」は建物の土台という意味ですから、どちらの偏でも意味はほとんど同じです。

異体字の成り立ち ⑥

1	偏と旁を縦に並べる	𡗗
2	部首を元の字に置換	𡗘
3	同じ意味の字に置換	址
4	二つの字を合体	𡗙
5	逆さ文字	𡗚

7. この石碑には「広済群生」と書かれています。「万民を広く救済する」という意味ですが、「群」の字の偏と旁である「君」と「羊」の字が縦に並んでいます。

3. 同じ意味の字に置き換える ⑤

址 = 址

「土地の神を祀る為に柱状に固めた土」の象形 「段のついた土の山」の象形

𡗗 → 土 𡗘 → 𡗙

6. 異体字の成り立ちをまとめてみます。異体字には、(1)偏と旁を縦に並べたもの、(2)部首を元の字に置換えたもの、(3)同じ意味の字に置換えたもの、がありました。

異体字には、この他に(4)二つの文字を合体させたもの、(5)厄払いなどの理由で、逆さ文字にしたものがあります。

それでは(1)から順に、他の例を見てみましょう。

7

廣濟群生

こうさいぐんじょう

廣濟群生 …… 万民を広く救済する

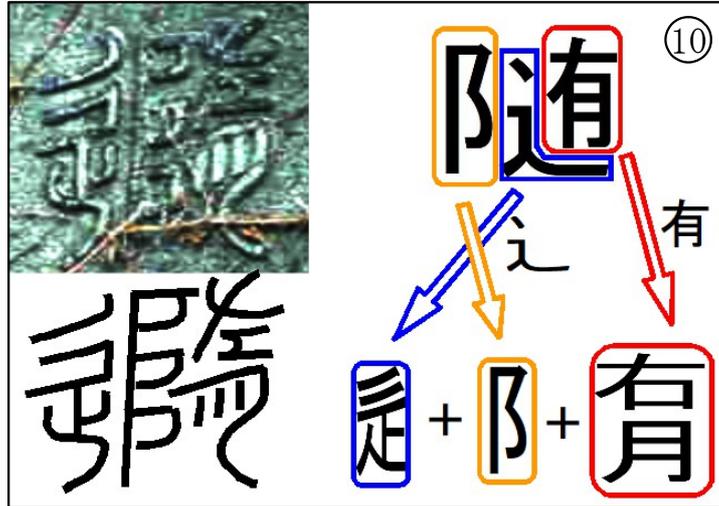
8. 余談になりますが、この碑は東福寺にある第一日赤の脇に建てられていました。第一日赤は昭和9年に開院したのですが、開院に尽力した閉院宮載仁(ことひと)親王を顕彰するために建てられたのがこの碑で、題額は載仁親王の字です。

初めは表通りからよく見える、ここに建てていたのですが、本館が建て替えられた時に移設され、今では、駐輪場の奥の誰も見ないところに建てています。

8

日本赤十字社京都支部病院 昭和9年開院

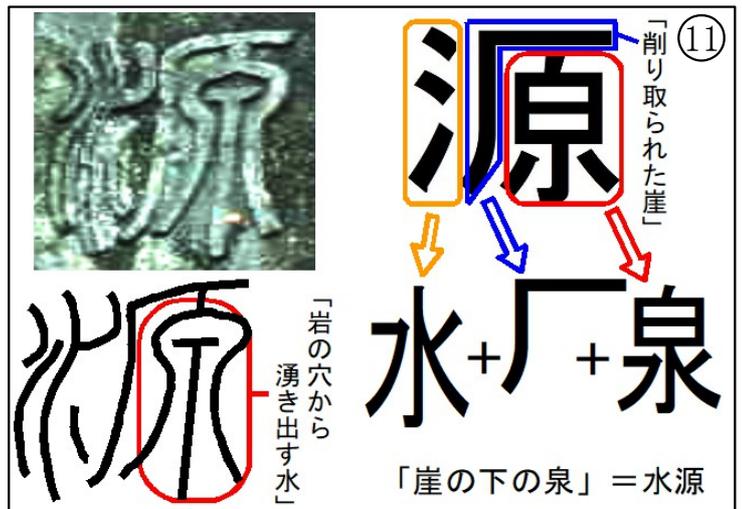
9. (2)の元の象形文字に置き換えた例をもう一つ紹介します。これは琵琶湖疏水第二トンネルの西口に掲げられている扁額です。西郷従道の書で「山にしたがいて水源に到る」と読むようですが、普通にはちょっと読めません。



10. 「随」の字は「こざとへん」と「しんによろ」と「有」という字に分解して、順番を変えています。先ほどと同じ「しんによろ」の元の字を左に「こざとへん」の元の象形文字を真ん中に、「有」を「右」と「月」に分解して右に持ってきています。

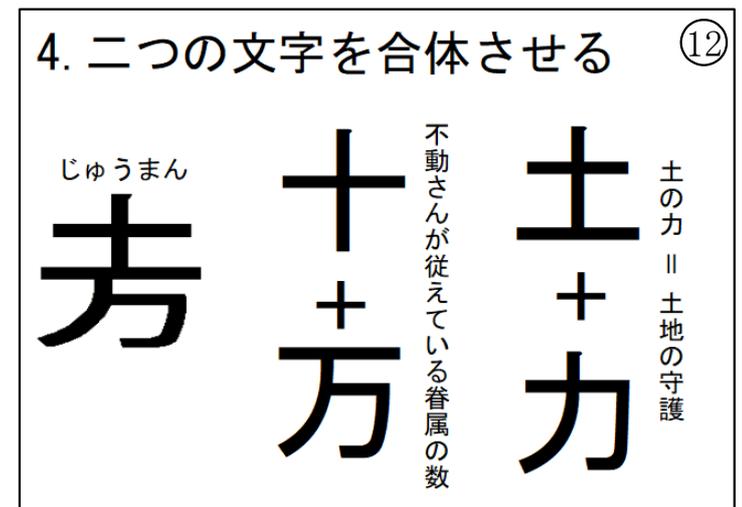
11. 「源」の字は「水」「がんだれ」「泉」の3つに分解できます。左は「サンズイ」で「水」を表しています。「がんだれ」は削り取られた崖、「泉」は「岩の穴から湧き出す水」の象形文字で、合わせて「崖の下の泉」つまり「水源」を表しています。

「随」も「源」も大変むづかしく、第一疏水が完成した明治23年に、この扁額が読めた人はどれだけいたのでしょうか？



12. (4)の「二つの文字を合体させてできた文字」の例としては、こんな文字があります。この字は「十」と「万」を合わせてできた文字で「じゅうまん」と読みます。

「土」と「力」が合わさって、土の力、つまり不動さんが土地を守護していることをあらわすとも、「十」と「万」が合わさって十万、つまり不動さんが従えている眷属が十万いることをあらわしている、とも言われています。



13. 十万不動のあるお寺は同聚院とって、東福寺の塔頭です。ここは藤原道長が建立した五大堂のあった場所だと言われています。五大堂とは、不動明王を中心に五体の明王を祀ったお堂のことですが、現在では四つの明王像は失われて、中尊の不動明王だけが残っています。



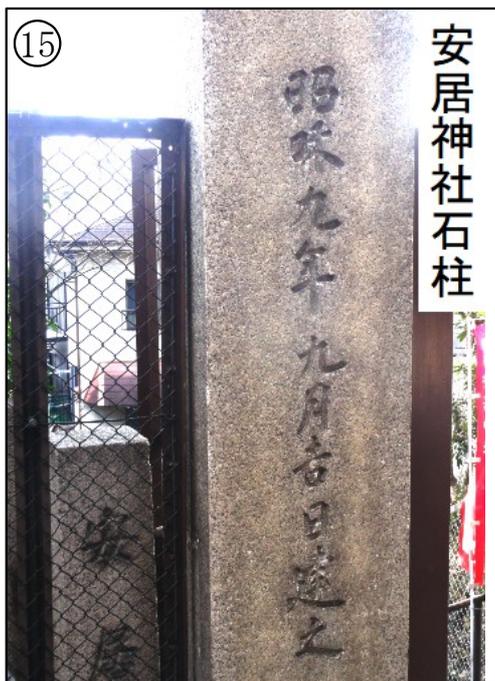
13

⑭ 厄払い等の理由で
5. 逆さ文字 ⇒ 上下または左右を
逆にする

和 → 𠄎

昭和9年9月21日… 室戸台風来襲

⑮



安居神社石柱

14. (5) の逆さ文字の例としては、こんな字があります。これは、厄払いのために、偏と旁をわざと逆にしてしています。

昭和9年に室戸台風が来襲し、京阪神に大きな被害をもたらしました。この字は、この時に立てられた石柱に書かれていたもので、昭和の「和」の字の「のぎへん」と「口」を逆にしてしています。

15. これがその石柱で、大阪天王寺の安居神社の参道に建てられています。安居神社といえば、真田幸村が大坂夏の陣で戦死した場所として有名です。

16. この石柱の傍らには、異体字の一つである逆さ文字についての説明の駒札が建てられていました。これによると、厄払いの他に、同じ文字が重複した時にも、一つの字を逆さにする場合があるそうです。

皆さんも、どこかで異体字を見かけられたら、ぜひ教えてください。

16

